

令和元年度公立高等学校入学者選抜学力検査の分析結果について

1 目 的

- (1) 検査問題の妥当性を検証し、今後の内容・形式等の改善に役立てる。
- (2) 受験者の学習成果の実態を明らかにし、県下中学校の学習指導上の課題を考察し、改善の指針を示す。

2 学力検査

- (1) 前期選抜・・・国語，数学，英語
- (2) 後期選抜・・・国語，社会，数学，理科，英語

3 分析方法

全日制課程の受験者のうち，前期選抜では，25校200人，後期選抜では，50校400人の答案を抽出し，教科ごと，小問ごとにその状況を分析考察した。

4 分析結果

- (1) 平均点について ※（ ）は昨年度の平均点

イ 前期選抜

教科	国語	数学	英語	総点
平均	64.6 (62.4)	44.1 (48.4)	60.0 (49.7)	168.7 (160.5)

ロ 後期選抜

教科	国語	社会	数学	理科	英語	総点
平均	67.2 (61.7)	58.5 (63.4)	45.9 (51.2)	55.7 (51.6)	58.5 (51.7)	285.7 (279.6)

- (2) 得点分布

- イ 前期選抜・・・冊子4ページ
- ロ 後期選抜・・・冊子28～29ページ

(3) 各教科の概況

【前期選抜】	
国語	漢字の読み書きを含む基礎的・基本的な知識，本文内容を選択肢で問う問題の得点率は高いが，記述問題については，説明に必要な要素を十分整理し表現する力に課題がある。
数学	基本的な計算の正答率は高いが，条件を適切に処理し，既習の知識を組み合わせて解決する問題の正答率は低く，複数の事象を論理的に考察して数学的に処理する力に課題がある。
英語	コミュニケーションに必要な基礎的・基本的表現の定着はみられるが，会話の流れを適切に理解し応答する力，複数の情報から大切な情報を的確に読み取る力や自分の意見を論理的に表現する力に課題がある。
【後期選抜】	
国語	国語の基礎的・基本的な知識や，本文の部分的な内容を問う選択問題については学習の定着がみられるが，本文全体の内容を的確に読み取ったり，自分の意見の根拠が適切であるか吟味しながら書いたりする力に課題がある。
社会	記述問題を減らして記号問題を増やしたことで，論述問題を含めて無答率は大幅に減少，記述問題の得点率は上昇したが，記号及び論述問題の得点率は伸びなかった。基本的な知識を活用しながら，資料から必要な情報を読み取り，思考・判断する力や，適切に表現する力に課題がある。
数学	簡単な数式の意味の理解，計算する力を問う問題においては正答率が高いが，文章や条件を読み取り整理して立式する力や，資料を活用して理由を問う問題や証明問題において，根拠を示しながら筋道立てて表現する力に課題がある。
理科	基礎的な知識を問う選択問題，基礎的な語句を組み合わせて解答する問題の正答率が低かった。また，実験結果や調査結果を基に思考して計算する力，実験結果を基に考察し表現する力に課題がみられる。
英語	基本的なコミュニケーション能力の定着がみられる一方で，話の展開を理解し大切な部分を的確に捉えることや自分の情報や考えを適切に表現する力に課題がある。
各教科 共通	基礎的・基本的な知識の定着はみられるが，知識や理解を生かして思考し，判断し，表現する力に課題がある。既習の知識を組み合わせて考察する問題，情報を読み取り，それを基に考え，的確に表現して答える問題については，正答率・得点率が低く，無答率も高い傾向にある。

※無答率：解答欄が空白であったものの割合